



「雪の大成神宮大鳥居」

天真

人びとの仕合わせのために……天真会教団

318号

令和7年3月1日発行

宗教法人 東洋最高道德学会



宗教法人 東洋最高道德学会
医療法人 天 真 会

名誉総裁
伏見 博明 殿下

春 愁

今月のことば

雲表の山里に詠める歌
○父母所生この山里の春の日の
もの憂きときは森を歩きぬ
○たたなずく山のはたてに日の入りに
余光は美に雲を染めけり
○面河なる大成山の夕雲の
見のさやけさを飽かずながめり
○かつら木は芽吹きそめけりこの峽を
埋めて咲ける花のみなかに
○山に入り春のまひるの花かげに
生の命を思いみるかな



前会長
故長岡 悟

天真 318 号

目次

今月のことば『春愁』

前会長 故長岡 悟

- 01 ——— みおしえ 天真の慈門
前会長 故長岡 悟
- 02 ——— 東洋最高道德学会の御祭神とみおしえ
前会長 故長岡 悟
- 04 ——— 久万高原町を散策してみました。
- 05 ——— 情報伝言板
- 06 ——— 山びこの賊 第46回
加藤 恵一
- 08 ——— 田窪さんのぶら～り山歩き
- 10 ——— 天真俳壇

題字：前会長 故長岡 悟／表紙：『雪の大成神宮大鳥居』



医療法人 天 真 会

〒791-1112 愛媛県松山市南高井町333 TEL (089) 976-7777

- | | | | |
|-----------------|-------------------|----------------------|----------------|
| ■ 南高井病院 | ■ 南高井病院介護医療院 | ■ 地域連携室 | ■ 南高井居宅介護支援事業所 |
| ■ 南高井デイサービスセンター | ■ 南高井訪問看護ステーション | ■ 南高井ホームヘルプステーション | ■ 小規模多機能ホーム南高井 |
| ■ 小規模多機能ホームつよし | ■ みなみの杜デイサービスセンター | ■ サービス付き高齢者向け住宅みなみの杜 | |



みおしえ 天真の慈門

一切衆生の苦惱を抜済せんがために、天真の慈門は広大無辺なり。

いかなる宗教に属し、いかなる宗派なるも、ひとたび天真の慈門に浄心を起さば一念頭上に蓮華を開き、随処に浄土を莊嚴せん。

天真の慈門は全てを超越せる万教の元始たる天理あるが故なり。病める者、貧しき者、瞋れる者、みなこれを証入せん。人天誰か入らざるものあらんや。

これは故長岡悟前会長の天真56号の「みおしえ」です。人の世は苦悩は満ちています。生も死も苦しみですし、病気の苦しみもあります。怨み憎しみのある人と会うことも苦しみであり、愛する者と死別・生別すること。求めて得られないことも、まことに執着を離れない人生は、

すべて苦しみであります。

この苦しみの原因は、つきつめてみますと、人間が生まれつき持っている激しい欲望に根ざしていることがわかります。

この欲望の根本が「とらわれの心」です。この「とらわれの心（執着心）」を捨て去り、身も心も清浄にして、素直な心で神に依りしたがえば人間の悩み苦しみはなくなります。

この苦悩からの脱出した境地に至る、てだてとして滝にうたれたり、石の上に座って瞑想したり、朝夕五座三座して無駄な時間を費やして、お題目やお念仏を唱えることもいりません。「鎮座帰神の修法」をうけられますと、「清らかに、自由な心」になります。その時から、

一、正しい見方

実相を明らかにして、原因・結果の道理を信じて、誤った見方をしないこと

一、正しい思い

欲にふけらず、貧らず、瞋らず、害なう心のないこと

一、正しい言葉

偽りと、むだ口と、悪口と、二枚舌を使わないこと

一、正しい行い

殺生と、盗みと、よこしまなことをしない

一、正しい生活

人に恥ずべき生き方をしない

一、正しい努力

正しいことに向かって怠ることなく努力すること

一、正しい記憶

何ごとをなすにも意識をはっきりして、正しく心にとめること

一、正しい心の統一

心を清らかに静めて、正しく素直になること

右の八つの心のもち方にかえていただきます。このことを「神ながらの道」といい、佛さまは「八正道」と教えています。

「とらわれの心」を捨て去り「神を信じ、清らかな、素直な心」になりますと、ちょうどテレビのチャンネルを切り替えたように、今までの悲劇のドラマは、明るい楽しいドラマに変わります。例えば、燈火をかかげて、真暗い部屋に入るように闇はたちまち去り、明るさに満たされます。

この尊い「みおしえ」を守り、神と祖先を篤くお祭りしますと、人は欲から遠ざかり、病いの人は、たちまち癒え、貧者は長者となり、争いごとは、ただちにやみます。

これが天理であり、御神意であります。

宗派を超えて、人生最高の幸せを指標とした教団、それが天真会です。



東洋最高道徳学会の

御祭神とみおしえ

御祭神は、主神に天之御中主神を、脇神に釈迦牟尼仏・太上老君・神農を奉斎申し上げております。

この一神三尊を総称し、本教団では

大天神三尊霊命と尊唱申し上げております。

■天之御中主神

天之御中主神は、古事記に「天地初めて発けし時、高天の原に成りませる神の名は、天之御中主神」と書かれています。天地が初めて発けてまだ、この世に何ひとつなかったときに「成りませる神」が天之御中主神でありました。すなわち、

宇宙万物を生み出す徳の根源の力、これを「大極」と申します。大極は万物の元始であります。「大極」こそ天之御中主神であります。だから、絶対神、最高神であります。この最高神の御神意に背かぬ生き方を「惟神の道」と申します。「かむ」は「神」のことです。「大極」であり、また「自然」であります。「ながら」とは「何々をしながら」ということで、そのものと共に、という意味であります。だから、「かむながらのみち」とは、人為のない、自然の素直な心で、神さまとともに神さまの御心にしたがって生きてゆく道をいいます。

(註) 天之御中主神は天照皇

大神や八百万神の大本の神さまであります。

■釈迦牟尼仏

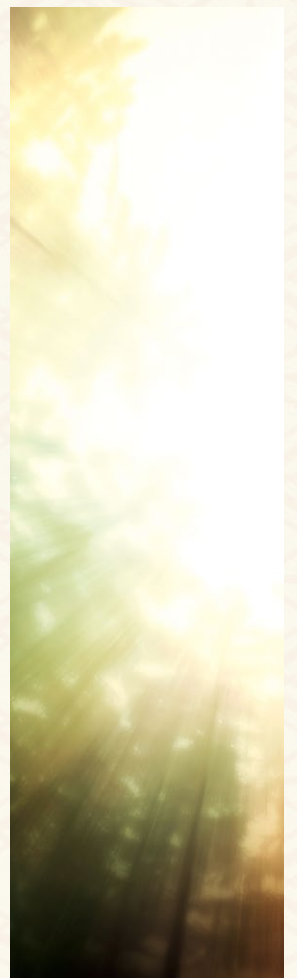
釈迦牟尼仏とは御釈迦さまのことです。お名前は悉達多と申し上げます。西紀前五六五年、

印度藍毘尼園の無憂樹下に、お生まれにまりました。二十九才のある日、老人、病者、死人、沙門を見て、出家を志し苦行六年を経て、仏陀伽耶の菩提樹下に端坐思惟して、人間が幸せに生きるためには、その苦しみや、悩みを捨て去り（仏教ではこのことを、解脱といいます）、自由の身となり、心の安らぎ（涅槃とよびます）をえることである

と悟られたのであります。

その解脱（捉われた心を捨て去る）の方法として「仏に随い、逍遙して自然に帰す。自然は是れ弥陀国なり」と、或いは「正念自然」「解脱自然」等の教えがあります。

これは本教の主神、天之御中主神の項で述べたように、「人爲のない素直な心で、自然に帰すること」。自然に帰すとは、神さま、仏さまの御心により随う、ということと同義であります。それが（解脱）することです。弥陀国とは解脱した境地をいいます。神さま、仏さまの世界です。苦もなく、悩みもない、安心の生き方、くらし方が弥陀国に生きているのであります。



■太上老君

一般に、老子と称されており、紀元前六世紀（約二千六百年前）ころのお生れであるといわれます。

中国楚の国の苦県の人で、姓は李氏、名は耳、字は伯陽、諡を聃と申されます。

有名な「道德経」は、太上老君が西方に旅する途中、函谷関の関守の尹喜に請われ書いた五千言がこれであると伝えられています。

道德経は、宇宙人生の根源を究明し、恒常不変絶対の相を見だし、人間が現実相對の処す

る道を説かれたものです。

その宇宙と人生の根源的な真理とは、玄の又玄なる「道」の思想、すなわち、自然・恬淡・虚無・無為の哲理であります。

これを要約しますと「樸に帰れ」ということであります。「自然の道」に帰ること、すなわち「神に帰一せよ」という意味です。

この考え方を「天道主義」または「天道思想」とも云います。作為のない人間社会こそ、本来の人間の幸せと文化が成立する根底をなすものであることを強く説いています。

（註）本教団の東洋最高道德学会の名は、老子の「道德

■神農

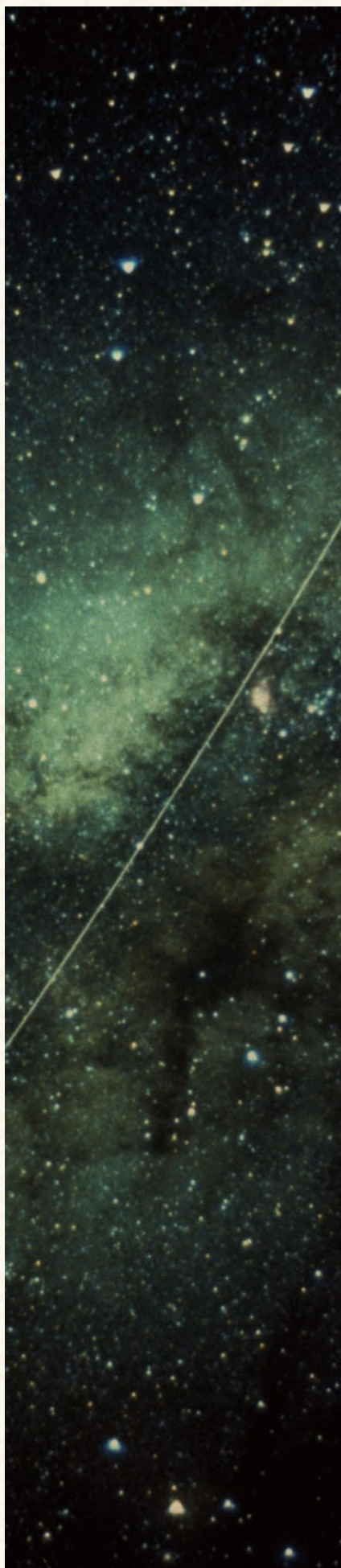
「経」に由来せるものであり、いわゆる人倫の道德（Moral）ではありません。

神農さまは、紀元前二七八〇年頃（今から約五千年前）の中国の帝王であります。中国古代の三皇の一人であるため、炎帝とも称されます。

御生母は、女登という女神で、竜神に感応して神農さまをお生みになられたといわれます。この神さまは、耕作の法を教えたので、百姓の始祖であります。百草をなめてを一薬を知

ったというので薬祖、医祖としても崇敬され、五絃の琴を作られたので楽師の祖とされ、日月・星の運行により天文を知り、八卦を重ねて六十四卦とされたので、易学の神であり、炎帝の炎は、火の神の意もあるため、鍛冶や窯業その他、火の力を藉りる職業の神とされ、或いは交易の道を教えたので、商神とされて尊崇されてきました。

故に、本教団では、生活と職業と医療、すなわち「養生」の守護神として篤くお祀りいたしております。



久万高原町を 散策して みました。

編集部

vol.04

※前号からの続き

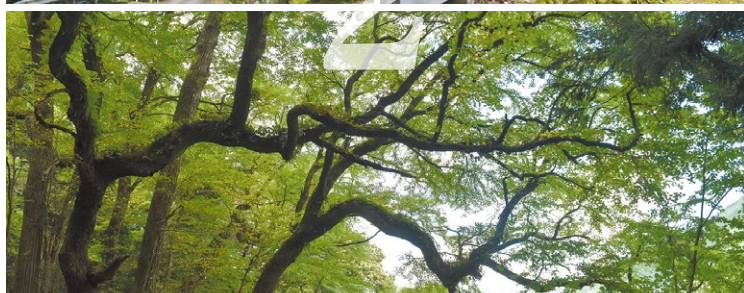
大成神宮に別れを告げ、渋草目指してもと来た道を下ります。今回は行きませんでした。が、神宮の駐車場付近から更に上には、ヒメボタル群生地や風穴群があります。また今度取材してご紹介させていただきます。

下っていると、左手に山びこ荘が見えます。山びこ荘は文化10年に建築されたもので久万高原町の指定有形文化財に登録されています。昔は番所や戸長役場としても利用されていました。

山びこ荘を過ぎてしばらくいくと、左手に初瀬の大桂が見えてきます。少し見えにくい場所にはなりますが大成記念園の看板が右手に見えますのですぐ分かります。この桂の木は株周りが30メートル、樹齢1500年と言われており、神秘的な雰囲気にも包まれています。周囲には「悠久」の石碑が見えます。

では桂の木に別れを告げて再び渋草へ向かいます。渋草から今度は石鎚スカイラインの方へ向かいます。目指すは面河溪。15分くらい走ると面河溪へ到着です。面河溪の手前には面河山岳博物館があります。

面河溪は四国最大の溪谷で、面河川が流れる国指定の名勝です。川の両面には切り立った奇岩を目にすることができます。川沿いに



情報伝言板

鎮花祭のお知らせ

東洋最高道德学会 4 大行事の一つである「鎮花祭」を下記のとおり執り行います。

鎮花祭とは古神道の古い秘儀に属するもので、その日に限り御神前を「花の辻」と称し、色とりどりの花々を花玉串として奉るとても優雅な神事です。鎮花祭が行われるこの時期は疫病が盛んになる時期でもあることから、祭事により疫病神の魂鎮めを行います。

詳細につきましては、後日案内状をお送り致します。

■催行日時

4月19日(土) 午前11時～

■場所

上浮穴郡久万高原町大成
大成神宮

東洋最高道德学会 会長
長岡 節子
医療法人天真会 理事長
清水 恵太



は溪泉亭があり飲食などをすることができます。
(営業日、時間をご確認ください)

溪泉亭から川沿いに更に奥へ進みます。橋を渡るとキャンプ場が見えます。

橋の上からの写真です。清流です。

更に奥へ進むことができますが、今回はここまで。キャンプ場で引き返すことにします。大きな案内図がありますので、これを見れば位置が良く分かりますよ。

もと来た道を引き返し、溪泉亭を通り過ぎ、橋を渡ります。橋を渡って国民宿舎の方へ向かいます。渡ったところに清流面河という施設があります。中には売店や食堂があり、ほっと一息つくことができます。わたしもここでアイスコーヒーを頂きました。冷たくて美味しかったです！

【続く】

山びこの賊

第46回
著 加藤恵一

服従することになった。

一方、中央では、この天正十年の六月、天下をゆるがす大事件が起こった。京都本能寺で、織田信長が明智光秀の謀反に逢い、討たれたのである。

そして、本能寺の変後、急遽、中国遠征から軍を返して、光秀を京都山崎に破った羽柴秀吉が、その翌年の四月、賤ヶ岳で宿敵柴田勝家と戦ってこれを倒し、名実共に信長の後継者としての地位を固めるとともに、その翌年、大阪城を築いて天下に君臨することになる。

信長の死と、中原における天下の動乱は元親に味方した。前に天正八年、元親は弟の香曾我部親泰を安土につかわし『四国の儀は、元親手柄次第に、切取候へ』という朱印を得ていたが、四国諸侯の裏面工作により、信長は元親に―四国征伐から手を引くべし、されば、本領土佐を安堵し、阿波南部を与えよう―と変言した。そして、元親がそれを蹴ると、天正十年五

そして、今度はまた、主膳正によつて進路を阻まれた長曾我部軍と戦わねばなくなる。成り行きとはいえ、土居清良にとつて迷惑なことと言わねばならない。しかし、その代償として清良記という著名な文書が残り、土居清良の名は後世に伝わったのである。

いっぽう、主膳正は同じく寡兵をもつて土佐軍を小気味よく破り、その進路を塞ぎながら、敵に敬遠されたために合戦の数が少なく、その輝かしい武勲は歴史と共に山草に埋もれてしまった。

しかし、その皮肉も、後世になって嘆ずることである。当面は伊予の戦局に目を移さねばならない。

この三間表の戦いのように、局地的には長曾我部勢の敗れるようなこともあったが、大勢として、

元親は伊予を東、南、から、ひたと食しつつあった。

そして、天正九年五月、長曾我部軍は南予に深く侵入し、三滝、甲森の両城を攻略、さらに南予の領袖西園寺氏の黒瀬城を襲撃するに至り、又、東伊予の方でも、同年七月には新居郡の豪族金子氏が元親に寝返った。

天正十年に入ると、三月に東予川の江城の妻鳥采女正が圧迫に耐えかねて元親に通じた。かつて主膳正が猪伏に赴く時、鉄砲一挺を贈ったかつての僚将である。そこで、河野方は河上但馬守に命じてこれを奪還したが、元親自らが出陣するにおよんで再度元親の手に落ち、この勢いに、新居郡の要である高峠城の石川備中守ほか、東予の諸豪族のことごとくが元親に

月、四国征討の軍をおこし、三好康長を先発させた矢先のことであった。そのうえ、その後の、信長の後継者争いが元親に四国制覇の時を貸したのである。

こうして天正十二年頃までには、阿波、讃岐のほとんどを制覇し、元親は残る伊予に全力を傾注するようになった。とくに東伊予、北伊予のほうは、これまでにそのほとんどを蚕食していたが、このころになると、現在の新居浜市あたりの豪族、金子城々主金子元宅^{もとぢえ}と提携をかたくし、しだいに伊予中臈部にせまろうとし、また南伊予の方も風雲急を告げつつあった。窮地におちいった伊予の当主河野通直は、この年の春、中国の毛利に救援を乞うてこれに対抗しようとする。

毛利輝元は、早速、宍戸元孝らの将を伊予に送り、現在の北条市にある恵良城^{えら}あたりで元親の軍と戦闘を開始した。

戦局は一進一退であったが、やもすれば、河野、毛利の連合軍

は押されがちとなり、その上、その年の九月、毛利氏は四国遠征をもくろむ秀吉につき、伊予から手を引いてしまう。

こうなると、後は一気呵成である。南伊予のほうでも、これまで頑強に抵抗をつづけていた三間郷あたりに、久武内蔵助親直が実に八千の大軍をひきいて押し寄せた。親直は、さきに主膳正と戦った久武内蔵助親信の実弟であるが、それ以前、兄の親が戦死したので内蔵助を名乗り、やはり伊予方面軍の軍代となったものである。

土佐軍は国境を越えようと、まず河原渕に布陣し、南のほうから、深田城、高森城と落とし、さらに大森城など三間郷諸城を襲った。伊予の軍勢もよく戦ったが、主家西園寺公広からの援軍もないまま、ついに長曾我部方に降伏する。そして、勢いに乗じた土佐軍は、さらに、西園寺公広の本拠黒瀬城にせまったので、公広はたまたらず、和睦降伏した。

こうした戦乱をよそに、主膳正

は猪伏に釘づけである。

——地の果に出かけても元親と一戦を……。と思っても、笹ヶ峠の戦いいらいとみに戦力の衰えている大野直昌の幕下にあつて、猪伏はいぜん揺るがすことのできない土佐への備えであつた。

主膳正はそのあいだ、火薬の生産に傾注した。合戦にそなえての備蓄ということもあるが、火薬は猪伏に軍資金をもたらす。量産剰余分を主家河野家をはじめ、味方の諸將に供給して対貨を得るのである。当時、銃砲火薬類の取引には金しか流通しないのが常であつたが、これにこだわらず販売したので飛ぶように売れた。そのため金のほか、銀、銅が集まり、日常の経済が主として銅銭や丁銀でまかなわれていたことを考えると、かえって好都合であつたろう。主膳正は手ぐすねをひいて土佐勢を待った。

【続く】

■プロローグ

毎回毎回、『ネタが無い…』と書いていますが、今回、これを書く2日前まで本当に何も思い浮かばず悩んでおりました。すると先輩から、「年末に島根経由で神戸に行ったことを書けばいいんじゃないの？」言われ、「いやいや、雪で道路封鎖するかわからない“やまなみ街道”を走って、トイレ事件があって、名探偵コナンの作者の出身地を通して、自転車で明石大橋見に行って、よしもと新喜劇を観て帰っただけですから、何もなかったツスよ」と、言った自分に気づき、『これやん!』っと、思いついたわけです。なので、今回は時系列で書きます。日記風に。

■ 12月30日

姉から、「ちょっと高めのおせち料理を注文したし、暇なら神戸に来る?」と言われ、暇な私は神戸に行くことにした。ただ、普通に神戸に行くのは何だか飽きたし、雪が降ってなかったら日本海経由で、降っていたら太平洋経由で行こうと計画。30日の仕事納めも身に入らず(すみません)、尾道から中国山地を縦断し島根県出雲市に抜ける“やまなみ街道”の雪情報と天気予報ばかり見ていた。

すると、30日の深夜までは降雪予報はなく、仕事終わりにそのまま尾道へ。路肩に積雪があるものの、道路上に雪はなく心配するまでもなかったなと余裕をかましていると、県境を越えた頃から、雨が雪交じりのあられになり、道路が白くなっていった。道路封鎖かもしれないと不安になるも、『写真を撮って天真のネタに!』と一瞬頭によぎる。でも、『除雪されていない道の駅に入って抜け出せなくなったら…』と、葛藤すること30分、標高が下がると明らかに雪の量も減っていき、出雲市に入ると、あの積雪は何だったのだろう?と思えるほど、雪は全くなかった。23時過ぎ、数台しか駐車していない「道の駅さくらの里 きすき」に到着し、車中泊した。

■ 12月31日

「境港水産直売センター」で、松葉ガニを買うために朝6時前に起床。ついでに道の駅内にあるトイレへ、朝のお勤めをしに行った。便器内の溜水にトイレットペーパー1枚、ヒラリと漂っていたのが少し気になったが用を足し流す。自分の分身は流れたものの、排水が逆流し便器いっぱいになった。焦る。便器の前で1人焦る。ただ、観察していると少しずつ水位が下がるので、このままにしておくべきか悩む。あのヒラリ1枚はこのことだったのかと後悔する。その時センサーが反応し、目の前で洗浄水が便器から溢れた。「誰も



お正月用なのか数万円の松葉ガニが飛ぶように売れておりました



ちなみに私は名探偵コナンをまともに見たことはありません。私の中でコナンは未来少年コナンなのです



年末の神戸を走ると、こういう景色に出くわします。悔しいけど、洒落てる



第七十八歩

「年末年始のこと」

今年の冬は寒くなるのが遅く感じたものの、例年に比べて非常に寒く感じるのは私だけでしょ
うか。特に積雪がひどく感じます。ただ、大きな声では言えませんが、松山市内に一冬一回く
らいは雪が積もってほしいと思う人、私のように正直に手を挙げましょう。

いないし、何もできないし、そのままにするか」と、しばし放心。が、『もしスッポンがあって、もしバケツがあったら…』と個室を出てみると、横並びに倉庫があった。…って？ その後どうしたかって？ やりましたよ。トイレ掃除&詰まり解消を。12月31日の早朝に。話をした姉から『運がついて良かったね』と言われましたが、違う！ 2024年の良運を流したと思う。

おかげさまで、直売センターの8時開店に間に合わず。警備員が出るほど満車らしかった駐車場から、蟹を購入した人が帰りだしていた。なんだか損した気もしたが、そもそも松葉ガニは高級で、一杯数万円。安くて7000円程だったので手が出ず、一皿1000円の甘エビだけ購入した（この刺身は美味かった）。

■ 帰路にて

その後、冬の日本海は想像以上に風と波が強く、駐車した車がグラグラと揺れた。普段なら綺麗に見えるはずの大山も見えず、鳴き砂のある海岸には風とみぞれがひどくて近寄れず、『名探偵コナン』の作者の出身地である鳥取県北栄町付近も、何も無い田舎という表現がピッタリの土地だった。でもやっぱり私自身は神戸とかよりも鳥取のほうが楽しくて性に合っている気がする。また近いうちに山陰巡りに来よう。

12月31日の夜8時頃、姉宅に到着。日本海側をのんびりブラブラしたが、交通量も少ないため、すんなりと着いてしまった。ただ、真っ暗だった山間部から煌びやか神戸に来ると、なんか煩わしい。まあ、24時間で600km近く走ったし、運も流したし、疲れたのだろう。その日は、姉が用意してくれた料理を腹がはち切れるほど食べ、夜10時には寝た。

■ 1月1日

初日の出を見に行こうと言う姉の誘いを断りそのまま寝た。あとで写真を見せてもらおうとすごい人数。本当に、都会は人が多いから都会なのだと思う。私は松山で充分です。運動がてら、自転車を借り明石大橋近くのショッピングモールまで行った。初売りだからか、いつも通りなのか、人多すぎて何も買わずに退散。その帰り、明石大橋の真下の公園に行った。日本海側はずっと天気が悪かったけれど、神戸はずっと晴れている。風は冷たかったけれど、日に当たると暖かい。

■ 1月2日

姉が、毎年神戸で開催されている「吉本新喜劇・新春吉本」のチケットを用意してくれていた。初めて観る念願のよしもと新喜劇。すごく面白かった。ただ、『くるぞくるぞ』というお決まりのギャグに、身体が飛び跳ねるくらい笑っていた隣の席のおちゃんと、退出時「オレやっぱり新喜劇好きやねん！」と、声高に話している高校生がいた事に衝撃を受けた。私自身は、好きな漫才師を生で見られた事が一番嬉しかったけれど、一昨年、脳梗塞を発症した往年の役者さんが、まだ現役で笑いを取っているというのを見て、静かにカンドーした年の始まりなのでした。



お勧めされた島根ワインをいかにも自分が選んだかのように姉にふるまっている写真



初日の出を待つ人の多さに面喰いました。奥の栈橋には所狭しと人が並んでいるのです



船で明石大橋の真下を通ることはあっても、じっくり観察することはないので良かったです



生の新喜劇は、役者さん同士がアドリブを多用し楽しそうにしているのが印象的でした。しつこかったけど（笑）

天真俳壇

屋根低く空広き町梅日和

降りたての霰にはやも日の差して

人柱の伝へは昔かいつぶり

菰田 美佐子

手作りの注連縄飾り島に老ゆ

注連替えて三千年の楠の春

神門守る隨身像に冬日濃し

中野 八千代

冬の朝臥龍山荘風流だ

冬の日に山荘よりも肱川を

庭で見る水仙花目出を見る

井門 ヨシエ

浅春の苔庭に映ゆ石の布置

茅葺の軒の深さや春日影

野水仙殉難の碑へ細る径

井上 恵子

石像の狸に賽銭石落日和

石臼も用ふ飛石冬木影

蠟梅の薫りや伊予の小京都

草地 たみこ

百選の水に初まる恵方の経

山頭火終の棲家の木守柿

手をつなぎ歩く乙女等黄落期

藤田 ひろむ

◆作品募集

あなたの作品(未発表・楷書で)を、はがきに住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、左記宛までお送りください。締切は偶数月10日。作品はお返しできません。個人情報保護は適切に取り扱います。

【宛先】

〒791-1112
松山市南高井町338「天真俳壇」係

宗教と文化 **天真** (第318号)

年間購読料 3,000円

発行日 令和7年3月1日

編集人 泉田孝治

印刷所 岡田印刷(株)

発行所 宗教法人 東洋最高道德学会
愛媛県松山市南高井町338
TEL. 089-976-7777
FAX. 089-976-6622

=歯のこなら=



清水歯科

松山市東方町
TEL(089)963-1441



<アルゴ>
ARUGOセレモニーホール
ARUGO別館
松山市錦町6-3
TEL 089-915-1171

小倉聖苑 本町ホール
松山市本町7丁目471-1
TEL 089-917-5300

株式会社 **小倉葬祭社** ☎ 0120-330-119
松山市錦町6-3 ARUGO別館2F
TEL 089-933-3008 FAX 089-933-0167